

---

○議長（渡辺文彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後2時05分）

---

◇ 武 田 勝 彦 君

○議長（渡辺文彦君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、武田勝彦君。

（6番 武田勝彦君 登壇）

○6番（武田勝彦君） 通告に従いまして、壇上より一般質問を行います。

松崎町の人口は、先月末で、6167人です。

松崎町は、静岡県で一番小さい町と言われて久しいですが、今年も、人口減少が進み、1月から11月までで135人減っています。去年は205人減少し、その前は191人減っています。1年で約200人弱の人口が、毎年減っていることとなります。このままいくと10年で約2000人もの人口が、減少する計算になります。

2020年の国勢調査でも、松崎町は、65歳以上の割合が48.9%と高齢化率が県内で4番目に高いです。松崎町にとって人口減少は、最も重要な課題で避けては通れません。

多くの人に定住してほしいと願っても、働く場がないという現実があります。

かつて松崎町は、漁業、農業、商業で栄えた町でした。はじめに漁業が衰退し、その次に農業も高齢化で駄目になりつつあります。残った商業も、観光産業が何とか支えている状態です。その観光観光も今は、新型コロナウイルスの影響で大きなダメージを受けています。この観光産業を何としても盛り上げていかないと、人口減少を食い止めることは絶対にできません。

松崎町は、昭和53年に当時の依田町長が『花とロマンの里』というキャッチフレーズを作り、観光を進めてきました。その当時は、各地から多くの視察団が松崎を訪れたと聞いています。

あれから、半世紀近くが過ぎて、最近では河津町の『河津桜』、南伊豆の『ひまわり』や『菜の花』に株を奪われ、松崎町のキャッチフレーズである『花とロマンの里』がかすんできたように思います。

私は最近町会議員になったばかりであります、多くの方に「町を元気にしてほしい」と言われます。多分町長も、たくさんの人に言われてると思います。私は、観光を活性化させ

れば町も元気になると考えています。

そういうわけで、本日の一般質問は、花を使った観光について質問をいたします。

質問1 松崎は、『花とロマン』をキャッチフレーズにしてきましたが、今までに花を使ったまちづくりはどのようなものがありましたか。

質問2 田んぼをつかった花畑は、地域への経済波及効果が期待できないという理由で中止しましたが、なぜ中止し、なぜ失敗したと思いますか。

質問3 田んぼをつかった花畑は、平成30年から観光協会が事業を引き継いできました。町も協力していると聞いていますが、いつからどのような支援をしていますか。

質問4 今後町として、この事業にどのように携わっていくか。また、町全体の事業に再び戻す考えはないですか。

次に、那賀川沿いの桜並木について2点ほど質問をいたします。

那賀川沿いに約6キロにわたり約1200本の桜が植えられ、今や桜の名所となり毎年多くの観光客が訪れています。始まりは、昭和30年代後半ごろだと言われているので、古いものは半世紀以上経っていると思います。最近では、枯れている木が目立つようになりました。

そこで、一つ目の質問ですが、桜並木の維持管理は、どのようにしているかお伺いいたします。老木になり枯れてしまったり、台風などで倒れた桜の木は植え替えなければなりません。1997年に河川法が改正され、根が弱ると地面に隙間ができて堤防決壊に繋がる可能性があるため、川沿いの植樹ができなくなりました。

そこで二つ目の質問です。

堤防に変わる新たな場所は検討しているのか、お伺い致します。

以上が壇上からの質問です。

(町長 深澤準弥君 登壇)

○町長(深澤準弥君) 武田議員の質問に回答させていただきます。

まず第1の1、田んぼをつかった花畑について、松崎町は『花とロマンの里』をキャッチフレーズにしてきたが、今までに花を使ったまちづくりはどのようなものがあるかという質問に対してです。

松崎町は昭和53年から『花とロマンの里』をキャッチフレーズに、まちづくりを進めてまいりました。ここで言う花は、『flower』と言われる、いわゆる『花』ではなく、緑あふれる潤いのある快適な環境作りを総称したものを意味して『花』としています。

このキャッチフレーズのもとに展開してきた『花いっぱい運動』の事業としましては、花の日の町内の清掃、道路、河川沿線の緑化、町花壇の植栽管理、環境保全モデル地区の設定や管理、各家庭に立花を配布する『一戸一木運動』、一般町民を対象とした、園芸講座や花壇管理者を対象とした『緑化技術講習会』、一般の方もしくは団体を対象とした『花壇コンクール』、老人会による花苗の生産、田んぼをつかった花畑などございますが、この他にも様々な事業を実施してまいりました。

1-2、田んぼをつかった花畑は、地域への経済波及効果が期待できないとの理由で中止したが、なぜ失敗したと思うかという質問に対してです。

田んぼをつかった花畑につきましては、地域への経済効果が少ないという理由から事業を休止するとの前町長の判断から、平成29年度に町主体での運営は中止となりました。平成30年度からは、民間団体である『花畑実行委員会』が主体となった形で、事業が継続されております。平成12年から継続してきた事業であり、松崎の春を代表する花のイベントとして定着し1シーズンで8万人もの集客があり、認知度もあるイベントでございます。

町のPRにも大きく貢献し、また、宿泊や飲食、お土産購入などによる地域経済効果は、私はあると思っております。

1-3、田んぼをつかった花畑は、観光協会が事業を引き継いできたが、町も協力していると聞いているが、いつからどのような支援をしているかという質問でございます。

平成30年度から、観光協会が事務局となっている『花畑実行委員会』が中心となって、花畑の事業を運営しております。町としましては、実行委員会、が費用負担の関係などから対応が難しいといわれる部分を支援しており、例えば仮設トイレとか、足湯の設置管理については、町が対応しております。花の咲く部分の耕耘や、種まき、耕作者謝礼等の管理につきましては、平成30年度は、花畑実行委員会の単独での管理。令和元年度と2年度は、町と実行委員会で実施区画を折半して対応したと伺っております。令和3年度からは、作業内容に応じて役割分担することに変更し、町は花の種子等の購入、耕耘、耕作者謝礼、終了後の除草作業などを行い、実行委員会は、種まきや駐車場、おもてなし、PRの部分を対応することとなって進んでおります。

1-4、今後町として、この事業にどのように関わっていくのか、また町主体の事業には再び戻す考えはないかという質問でございます。

田んぼをつかった花畑につきましては、町主体で実施していただくよりも、現在の花畑実行委員会が主体となった運営の方が、種まきにいたしましても多くの方が花畑に関わりを持

っていただいていると感じております。現状のまま花畑実行委員会が主体となって運営していただくのが、よろしいかと考えております。

しかしながら、事務局となる観光協会や委員の皆様のご負担が増えていることも承知しておりますし、花畑実行委員会では対応できない部分につきましては、今後町と一緒に対応を考え役割分担をしっかりと、連携を取りながら事業に取り組んでいくのがよろしいかと考えております。

2番、那賀川沿いの桜並木について（1）桜並木の維持管理はどのようにしているか、という質問でございます。

町では、花いっぱい運動の一環として道路河川沿いの桜の管理をしております。冬の休眠期の消毒を毎年実施しており、また、毛虫の被害が近年多くなっていることから、今年度については夏の時期の消毒も実施いたしました。

また桜の下に、紫陽花やツツジ、シャリンバイといった町で管理する緑化木もございますので、そちらと合わせて周辺の草刈やツル取りも定期的に行っております。

また、休眠期においてテングス病にかかった枝の除去や、不必要なひこばえや胴吹芽などの除去作業も行い桜の管理に当たっております。

町内には、桜会という桜の保護をしている民間団体がございますので、そちらの団体でも管理していただいている部分もございます。

2の（2）、1997年に河川法が改正され根が腐ると地面に隙間ができ、堤防決壊に繋がる可能性があるため河川沿いの植樹ができなくなったという事になっているが、堤防に代わる新たな場所を検討しているのかという質問でございます。

桜の新たな植栽場所につきましては、牛原山が桜の名所になったら素晴らしいなということで、2年前からソメイヨシノの植樹を始めております。これは、雲見地区の方と富士宮市の方との縁がきっかけで始まったもので、苗木を富士宮市から寄贈していただき、松崎小学校の6年生が卒業記念として毎年植樹をし始めております。

那賀川沿いの桜につきましてはソメイヨシノが多く、この桜の寿命は60年ほどとされており、すでに寿命を超えたり寿命に近いということで、かなり弱っているものが増えております。少しでも長く、桜の花を咲かせ続けられるよう引き続き管理を続けてまいります。

また、河川への新たな植栽につきましても、護岸整備と植樹の併用というやり方もあると伺っておりますので、そういった形で治水の管理と植樹といった両方のことができる方法を検討してまいりたいと考えてございます。

○6番（武田勝彦君） 一問一答でお願いし評価します。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○6番（武田勝彦君） 『花とロマンの里松崎町』というキャッチフレーズ『花』がそういう総称であるっっちゃうことは今初めて知りましたが、私はそのキャッチフレーズは、大変良いと思ってるんですけども、そのキャッチフレーズがですね、今そのキャッチフレーズ通りになっていないような気がして残念なんです。

松崎町を代表するあの観光スポットというのは、長八美術館、重文岩科学学校、なまこ壁、棚田そういったどれも皆先人たちが、残したもののばかりであります。これらはいずれ飽きられてしまうんじゃないかというそういう不安がないですかね。

これに対して、花や自然を使った観光というのは訪れた人に感動を与え、また来たいと思ってもらえる。リピーターを増やすことができる観光資源ではないかと思えます。そういう意味で町長、今後花を使った観光を積極的に進めていく考えはありますか。

○町長（深澤準弥君） 花は一番人を呼べる。そういったケースがずいぶん全国でございませう。

花の時期には、その季節ごとにいろんな花が最近見られ、花だけでなく、例えば松崎では少ないですけども、紅葉であったり自然の中での環境というのは非常に人を呼べる、引きつけるものがあると感じております。

武田議員がおっしゃっているのは、自分も実は『花』というのを非常にキーと思っております。先ほどちょっとお話が出た、長八美術館や岩科学学校、そしてなまこ壁、こちらもですね、実は先人が作ってくれてそれを残している。この精神文化があるこの松崎町の素晴らしいことは、先ほど申し上げた総称である花の一部ではないかと思っております。

それにプラスアルファで、今言った『花』を使って、田んぼをつかった花畑もそうですが、桜並木についても、あの桜並木は実は終戦後に悲しい思いをした方々が、桜会を中心に植樹したと伺っております。やはり先人の方々が植えてくれたおかげで、今この立派な桜並木があると考えておりますので、これが寿命があるということで、この次の世代に桜並木もしくは花見ができないような時代にはなって欲しくないとも自分も考えておりますので、そういった意味で、花を使ったまちづくりというのは、これからもぜひ進めてまいりたいと思っております。

今年度も、実は『まちかど花飾り』ということで、花を使ったイベントをやらせていただ

き大変好評を得ておりますので、今おっしゃるように花を使ったまちづくりの方もぜひ継続して続けてまいりたいと思っております。

- 6番（武田勝彦君） やっぱし花は、本当に人を呼びますので、そういった企画はですね、町のコンセプトにも合ってると思いますので、ぜひ進めてもらいたいと思います。

それで、今までやってきたこの花を使った観光の中に『田んぼをつかった花畑』というのがありますが、もう20年近く続いたわけですけども、最初の頃はすごい綺麗な花が咲いたんですけども、後の方になったちゅうか、後半ぐらいになると非常に咲きが悪くなりました。

そういうこともあったんでしょう。前町長が就任1年目から早々に中止をしました。「経済の波及効果がない」という理由でしたけども、今町長は「あったよ」と言ってくれてるんですけども、辞めたときにですね、そういった数字的な何か裏付けみたいのがあったんでしょうか。

- 企画観光課長（八木保久君） 経済波及効果につきましては、数字的な裏付けというものはございません。前町長の感覚的なものからかなっていう、ちょっと推測はしてるんですけども。

確かに河津桜のまつりとか南伊豆の桜まつりに比べると、松崎町の売店とかは少ないので地元へのお金が落ちるのは少ないかなということは、客観的に見られるわけですので、そういうところで経済波及効果が少ないっていうふうに前町長は感じられたのかもしれないと思っております。

- 6番（武田勝彦君） あの経済波及効果っていうことですね。一番経済っていうか恩恵を受けてたのは『より道売店』なわけですが、正確に言うと『より道売店の生産者』が一番恩恵を受けたということになりますが、3月から5月の間で出荷する生産者が200人以上いるわけですけども、だいたい2ヵ月で他の2ヵ月と比較するとだいたい倍の売り上げがあります。ですから、相当私は経済効果があったと思います。なかなか売り上げを倍にするっていうことは、なかなか営業努力でなかなかできないもんですからね。そういった面では、あったと思います。ですから、町が中止しても次は実行委員会の方が後を引き継いでくれたもんですから、非常に助かっています。

その実行委員会の方ですけども、平成（令和）元年から3年間、支援金っていうのを出していますよね。それってのは金額はどれぐらいなんだかわかりますかね。

- 企画観光課長（八木保久君） 令和元年度からっていう事ですかね。すいません。ちょっとそ

こまでの具体的な数字は申し訳ないですけど、ただ今資料を持ち合わせておりませんので、申し訳ないがちょっと把握しておりません。

申し訳ございません。

○6番（武田勝彦君） 私今新聞で見たのでは、令和元年だけ載ってたんですけどね、令和元年に280万。「種、肥料だっちゅうことで支給しました」っていうふうに書いてあったので。それを続けて出してると思います。実行委員会に聞いても「もらってるよ」と。今年は特に去年、コロナで中止になったもんですから、駐車場の収入がないってことで当然そういうことで、コロナ関係であれしてくれた。ということで、ぜひですねそういうことで支援というのは続けてもらいたいんですが、今年からですね、あそこの駐車場も地主が変わりまして、そこに新しい建物が建ちます。そうすると、駐車場が約半分ぐらいになります。駐車料金も減りますので、ますますその運営費っていうのは大変になってくると思います。今町とどういう関係か、微妙なっちゅうか、よくわかんないところでやってると思うんですけど。今後ですね、このこの際ですから、委託金ということで、先ほど観光協会って言いましたけど、あの民間のあれですね。失礼しました。今回はその、観光協会の方に委託ということで、全部任せるということにできないでしょうかね。

○企画観光課長（八木保久君） 町長の答弁でもお答えしておりますけれども、令和3年度につきましては、それぞれの作業で役割分担をしてということで対応しているところでございます。

なかなか観光協会に対応できないトイレとか足湯の関係。それから、今年度は種子の購入代とか、耕作者の謝礼とか終わった後の草刈りの分については、町の方でみんな支援する形になっておりますので、花畑実行委員会の方でも、種まきにつきましては、丁寧に巻いていただけてますし、多くの住民の方も関わりを持てるということで、そういった関係も花畑実行委員会がやった部分がメリットがあるというところもございますので、その辺は役割分担をして今後も対応していきたいと考えております。

○町長（深澤準弥君） 観光協会っていう話があったんですけど、先ほどもちょっとあって、観光協会が結構いっぱいいっぱいなところがございまして、うちの方と役割分担をすることによって、町の方が、うちの方も決して潤沢に職員がいるわけではないんですが、そういったところの役割分担が進むことによって、それぞれしっかりと協力ができるかなということですよ。

花畑実行委員会についても、役場の職員もしっかりと出席するような形で数年前から関わ

りを持たせていただいておりますので、運営の方にも参画をさせていただいてるんで、そういった形で、官民協働という形でやらせていただいているような現状です。

- 6番（武田勝彦君） あの実行委員会の方に聞きますとね、「やっぱし任せてくれた方がやりやすいな」とは言ってるんですよ。ですから事業は観光協会に任せて、それでちょっとできなかつた分をサポートする、というぐらいな形にした方がいいんじゃないかと思えますけれども、それはまた今後検討願います。

桜をやりたいもんで、桜の方に行かせていただきます。

あの、河川法が変わって、川沿いに植えられなくなったということで、それは24年前に改正されたわけですけども、その後新しい苗が植えられてるような気がするんですけども。その河川法ってのは、そんなに重要に、気にする必要はないんでしょうかね。

- 町長（深澤準弥君） オフィシャルな場で話をするということになると、間違いなく河川法は重視しなければなりません。ただ桜も、種子が飛んで生えてくるものもあるのかな、というところもございますし。いろんな形で、今河津桜もそうなんですけども、河川法の関係で今後寿命が来てできないという形で去年、一昨年、コロナの前ですね。その後、協議会みたいのを立ち上げまして、専門家もたくさん呼んで、結局その河川敷を諦めるような形で、違う形で植えるという方向に進んでいると思います。

ただ、町全体として、河津桜の名所を作るというような方向性に進んでいると伺ってます。ただ全国的に見ますと、河川法の改正のときにやったのは、やっぱりその洪水、治水対策についてのために、その治水がしっかりと守られるのであれば、河川の並木を残すといったようなところも千葉県の方でもございますし、その河川護岸の作り方によっては桜並木を残すことも今後の土木技術の向上も含め、治水の関係、洪水の予防について考えられるのではないかなということで、考えていきたいと思っております。

先ほど申しあげました通り、この桜並木は松崎の誇る並木だと思っておりますので、手を尽くしていろいろ考えていきたいと思っております。

- 6番（武田勝彦君） あの河津桜も、もし同じような川沿いにやってるもんで、そういう問題意識を持ってるそうです。河津町の方は2017年に河津桜並木景観検討会っていうの、町もそういう検討会みたいのやる予定はありますか。

- 町長（深澤準弥君） 今具体的に申しあげることにはできないんですけども、実はその河津の景観の関係の会議に出席してる方が何人かやっぱり、講演されてる人間もいたもんですから、松崎の桜も・・・というようなこともちょっといろいろ検討させていただいてはいます。

今後、県の管理の河川がほとんどですので、その部分については、やはり土木事務所等との協議も含め、いろんな形でクリアしなければならないもの、もしくは先ほどもお話があった通り、違う場所なのか違う形での植樹といったことを検討する必要は出てくるかもしれませんが、今後は少し考える必要が出てきていると考えております。

○6番（武田勝彦君） 那賀川沿いの桜並木は、非常に重要な観光資源だと思います。ですが寿命は必ずきますので、あの桜並木が少しずつ枯れて歯抜け状態になると、もう観光としての価値が落ちてきますので、そうなる前にですね新しいその代替地ですね。そういうのを作ってもらえばというふうに考えて、今日はですね、その提案をさせていただきたいと思うんですが。

桜の木っちゅうのは、あ的那賀川沿いの桜でも同じように、集客力っていうのはすさまじいもんがありますね。河津桜にしても、南伊豆の河津桜ともに、それから松崎のソメイヨシノいずれもすごい観光客が来ます。

ただ残念なのはですね、松崎町的那賀川沿いの桜というのはソメイヨシノなんですね。だから、ソメイヨシノですと七、八分ぐらいから花の見頃なんですけども、だいたい散るまで10日か、2週間ぐらいですかね。長くて。だけど満開で風でも吹けば、1週間で終わっちゃうということですね。非常に期間が短いので、経済効果が本当一時的です。それいうことは望みませんので、それを何とか解決しなきゃいかんということで、そうですね。

何とかソメイヨシノに代わる花というのは、一つポイントになるんじゃないかとおもいます。

それから、田んぼをつかった花畑だと、毎年、あの種代がかかるし肥料代もかかります。

ですけど桜の花っていうのは、最初の苗代だけすむわけですね。非常にコストがかからない。しかもですね、松崎町の場合はですね、先ほどあのソメイヨシノは富士宮かどっかから仕入れたと言いますが、松崎の場合は自前でできると。それはなぜかというと、大島桜をやってますね、桜葉で。その苗に接ぎ木をすれば、簡単にできるわけですね。

ですから、松崎の場合は苗をたくさんたくさん作らなきゃいけないんですけども、そういう土壤があるということでもあります。ですからその二つを考え、「桜を使った町おこし」ですかね。それをぜひやってもらいたいんですが、河津町の河津まつりつつうのは、多いときで1ヶ月100万人も観光客が来ると、その一部が南伊豆の南桜と菜の花まつりの方に流れていくんですね。松崎の方には、ほんのおこぼれ程度しか回ってこないという感じなんですけど、せっかく河津町にですね、たくさんの観光客が来てるのに、そのまま返しちゃうという

のは非常にもったいない。そういうことで町長。こっち回ってくるようなアイデアが必要じゃないかと思うんですけども、その必要性は感じてないですかね。

○町長（深澤準弥君） まさにおっしゃる通りで、河津桜で河津が非常に来ていたということは数字上もわかりますし、データでもとってありますし、ただ最近はそのまま南伊豆町にも大分お客様が流れておりまして、その南伊豆町と、先ほども申しあげました通り西伊豆、松崎、南伊豆で観光協会を連携させ、町の観光課も一緒にやっている伊豆西南海岸観光誘客協議会というのがありまして、そちらで周遊を目指そうという話をしております。

南の桜は、やはり河津桜よりもゆっくり見れるということで、実は最近、南へ行くお客さんが非常に増えてるというデータもちょっとございますので、南からですと、松崎の方へは誘客はもっとしやすくなっていると考えておりますので、ぜひその辺はやはり工夫をしてやっていきたいと思っております。

昨年ですかね、花畑実行委員会がやはり河津桜のお客さんをこちらに誘客しようということで、河津の観光協会とも連携をとって何か周遊的な作戦をいろいろ立ち上げたんですが、残念ながらコロナでその部分が思うようにいかなかったっていうことも聞いていますので、ぜひ、そこは賀茂郡の周遊という部分での観光の魅力アップは、進めてまいりたいと思っております。

○6番（武田勝彦君） それですね。そのアイデアですが、こちらの河津の方からこっちへ流れてくるような、よだれが出るような案がですねありますので、ちょっと紹介したいと思うんです。河津桜や南伊豆の桜はあの、川沿いにみんな咲いてますね、植えてますね。ですから両方とも似たような景観です。ですから、松崎はでそれと違った海や富士山が見えるところに、河津桜を植えて、その差別化、南伊豆や河津と違った差別化をするということをするればですね、河津桜で見て来たお客さんが南来て松崎来る。河津から松崎へ来るっていう流れが、今まで河津桜見に来てるわけですから、そういう流れができるんじゃないかというふうに思います。

もう一つがですね、土肥には土肥桜というのがありますね。今日新聞で土肥桜が一番開花したというふうなのが載ってましたけども、この土肥桜も植えれば、土肥に来た観光客が松崎に来るという流れができますね。ですからそういうふうになれば良い訳です。松崎にはそういった牛原山とか棚田とかハイキングコース海岸沿いとか、植えるところたくさんありますので。

それからまたはですね、以前、大分前ですけども、町がですね『ピラカンサス』って苗を

全戸に配った時があるんですけど、それと同じようにですね、桜の苗を希望者に配ってですね、空き地やですね、そういった庭、耕作放棄地みたいなところに植えてもらえばですね、町の景色が一変するんじゃないかというふうに考えております。

町長、この河津と土肥桜使ったこれ、2番戦術になりますけどどうですかね。

○町長（深澤準弥君） 実は全く同じことを雲見地区の観光協会の方々考えていて、雲見地区の地域おこしの会が河津桜の苗を、何年か前かも、10年ぐらい前から実は毎年いくらかもらって植えておまして、毎年、河津や南伊豆を見たお客様が雲見へ来て泊まるっていう、お客さんを増やすためにやったりしています。

ですので、そういった成功事例もあるので、それをどんどん進めていければと思います。

○6番（武田勝彦君） そこですねもう一つ、あのアイデアがあるんですけど。

河津桜は300億円という経済効果があるわけですけど。そういった河津桜にですね、負けないような桜の名所を作りたいと思いませんか。

それでですね、どういう案があるかと言いますとね。『河津桜』っていうのほら、河津町に『河津桜』っていう名前がついてますね。つまりご当地桜ということで、町をアピールするのに非常に良い訳ですから、松崎もですね『松崎桜』ちゅうのがあると、非常に良いと思うんですよね。

で、それがですね、公益法人日本花の会というところありましてね、桜の品種認定制度というのがあります。そこで新しい桜の名所を作るにあたっての品種を認定するということなんですが、2014年にですね、『掛川桜』っていうのを認定してるそうです。この制度を使えばですね、『松崎桜』っていうのができると思うんですが、その桜はどこにあるかということになるわけです。

で、その桜を私が見つけてきました。2種類。両方とも小杉原にあります。

3月上旬に咲く桜、小杉原の墓地の上の方にあるやつ。3月中旬に咲く桜、それは墓地の下に。これは両方ともピンクの桜で非常に綺麗です。

町長その桜のあれは、存在ご存知ですか。

知らないですか。

あ、よかった。

これをですね、認定されればですね、これさっき言った『河津桜』と『土肥桜』もいれればですね、『土肥桜』、『河津桜』その『松崎桜1、2』、『ソメイヨシノ』。1月中旬から4月中旬までずっと続くわけですよ。『松崎桜まつり』ができるわけですよ。

そういうことですので、今度はですね、あの、ぜひそういった桜の名所をですね、作ってもらいたい。ただ作るには20年30年とか時間がかかりますね。我々が生きてる間にそれを見ることはできないかもしれませんが、那賀川の桜も先人たちが植えてくれたおかげですので、今度は町長、我々がそういった後世に残してやる番じゃないかと思うんですが、いかがですか。

○町長（深澤準弥君） その桜の花の存在は全然わかりませんでした。他にも何かいろんな種類の桜が町内山とかも含め、あるということは伺っていますが、そういったものは非常にありがたい話だと思います。

確かに今、やはり、自分も重々選挙ときに言ったのは、今やらなければならないことがあるということで考えておりますので、今言ったその桜の関係は、やはり後輩に、いわゆる次世代に見せるためには、どこかやはりいろんな場所とかいろんなものを検討しなければならないかとは思いますが、ぜひ、進めてまいりたいなと思います。

○6番（武田勝彦君） それでですね、桜の名所どこに作るかという話ですが、今牛原山に作ってるという話ですが、私はですね今、伊豆縦貫道の残土を捨ててるあの鮎川地区。あそこが非常にいいと思うんですよ。もう広い。面積が非常に広いです。山に囲まれてます。ですから、そして風当たりも何少ないですね。ですから桜は満開で風で散っちゃいますから、風のあたりが少ないとこの方が候補地としてはいいわけですけども、周りの山がありますから、そこに遊歩道なんか作れば下から非常にいい景色が見えると。そういったことで鮎川地区がいいと思ってるんですが、現状では2／3は農地になると、1／3が・・・延長です。

（○議長（渡辺文彦君） 許可します。）

1／3が町所有ということなるということですので、その1／3の使い方がまだ決まっていないうふうに聞いてますが、ぜひそこをうまく使ってですね、桜の名所ができるんじゃないかと思うんですけども、どうでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 鮎川の埋立地の官地の部分につきましては、今はっきりと申し上げられるのが、基本的には避難的な公園とヘリポートを目指しているというようなことで一つ考えています。あの辺の農地の周辺部というのがやはり相当農地から山際までの部分が空くという話はちょっと伺っていて、そういったところに何かを入れないかというような話も出てくるというのは、その会議に出てる方々からもちょっと伺ったりしてるので、その辺も確認しながらですね、今言った辺りの植樹、植える桜もいろいろ考えることにはなるかと思いますが、ぜひそういったものもですね、検討材料に入れていければと考えております。

○6番（武田勝彦君） 2／3は農地になるわけですが、その農地も現状ですけれど、どれだけの人が農業をやるかっていうのは疑問ですが、ましてや10年20年先に、それ、農業のまま、農地のままなってるかというのは保証もできない。また元の荒地に戻るかもしれないですね。そういったときにですね、周りが桜の木で覆われてれば、そこを観光地として、また利用できますので、ぜひ検討を願いたいというふうに思います。

最後時間が来ましたので、まとめに入らせていただきます。

コロナ前の令和元年に、市別、市町別観光交流客数というのを、県が調査したものがあります。観光交流客数っていうのは、観光施設やイベントの来場者数と、旅館やホテルのお宿泊延べ数を足したもんだと。これは市町で観光担当課から報告を受けて、県が集計しているというのですが、賀茂郡5町で観光交流客数がとても良いのは、東伊豆町です。約145万人。次が、河津町で115万人。次が南伊豆町で94万人。これがベスト3です。で、4番目が西伊豆町の67万人です。最後が松崎町で西伊豆町の半分で、33万人です。トップの東伊豆町と松崎町では、100万以上の差があります。

このデータをですね、10年前と比較してみますと、増えているのは唯一南伊豆町だけです。松崎は24%も減っています。このデータはコロナ前のデータですから、10年間で24%も減ったのは、その間に効果的な観光政策をして来なかったという証じゃないかというふうに思うのであります。

かつてはですね、松崎町は国民宿舎の宿泊率が日本一という時代がありました。その観光の町がですね、賀茂郡の中で観光客がダントツに少ない町になったというのは、非常に悲しい限りであります。

このままでは観光駄目になります。

観光は、アイデアと実行力です。

何もしなければ、新しい風は吹きません。

『さあ、新しい松崎へ』町長のその言葉を信じて、私の質問は終わります。

以上で、武田勝彦くんの一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

3時10分まで

(午後 2 時 5 6 分)

---